

がん治療センター 連携を重視 先端医療にも対応 専門医養成も



がん相談支援センターが開いている患者サロン

役割高まる相談支援センター



広島大学病院が幹事となって主催した
がん診療連携拠点病院共催の
市民講演会(2017年9月)



がん相談支援センターのスタッフ

がん治療センター

より良いがん治療環境の提供を目指して

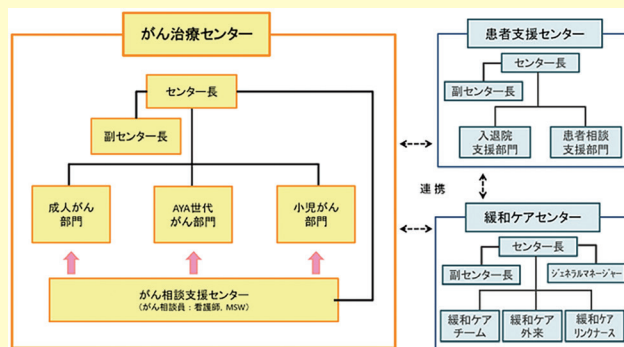
広島大学病院は、国から都道府県がん診療連携拠点病院、小児がん拠点病院、がんゲノム医療拠点病院の指定を受けており、広島県内や周辺医療圏のがん患者さんに適切な医療が提供できるよう努めております。「広島大学病院がん治療センター」(岡本渉センター長:准教授)では、近年、目まぐるしく変化しているがん治療を取り巻く状況に対応するため、成人がん部門、AYA世代がん部門、小児がん部門を設置し、関連する診療科やセンターと連携を取りながら、適切な治療を安心して受けていただける環境整備を進めています。もう一方の柱であるがん相談支援センターでは、年々相談件数が増え、患者から頼られるセンターとして機能しています。

日々進歩するがん薬物治療

新たながん治療の柱として免疫療法(免疫チェックポイント阻害薬)が登場し、今では、あらゆるがんで使用されるようになってきました。高い効果が期待される一方で、これまでのがん治療では経験することのなかった免疫療法特有の副作用「免疫関連有害事象」(irAE)がみられることが分かっています。irAEが起こる頻度は低いとされていますが、一度起こると長引いたり重症化することもあり、そのような場合には、がん治療に当たる診療科だけでなく専門診療科による対応が必要になります。

病院全体で迅速かつ適切に対応するため、センターが中心となって関連する診療科や薬剤師らでチームを作り、医療者向けの対策マニュアルや患者向けチェックシートを作成しました。医療者向けの対策マニュアルは県内の他医療機関にも提供されており、患者向けチェックシートは薬剤部のホームページで公開して他施設や調剤薬局でも使っていただけるようにしています。

またセンターでは、日々進歩するがん薬物療法に対応できる専門医を増やし、患者さんにより安心して治療を受けて頂くための取り組みとして、医師向けの研修プログラムを進めています。本プログラムを通じて3年間で3人が専門医を取得し、現在も多くの研修生が専門医の取得を目指しています。



～免疫チェックポイント阻害薬 副作用確認シート～

症状	内服薬	注射薬	点滴薬
☐ 全身倦怠感・疲労 ☐ まぶたが下がってくる ☐ 物が二重に見える ☐ 顔内痛がある	☐ 喉がだるい ☐ 食欲が落ちる ☐ 吐き気が続く	☐ 皮膚障害 ☐ 発疹がある ☐ 痒みがある	☐ 手足のしびれがある ☐ 力の入りにくさを感じ
☐ 心臓病 ☐ 息苦しい ☐ むくみや体重増加がある ☐ 動悸がする	☐ 大腸炎・下痢 ☐ 下痢が続く ☐ 便に血が混じる	☐ 神経障害 ☐ 手足のしびれがある ☐ 力の入りにくさを感じ	☐ 経路血検査値 ☐ 尿にむくみや腫れがある
☐ 1型糖尿病 ☐ 喉がひどく痛く ☐ 尿量が増える	☐ 関節性肺炎 ☐ 息苦しい ☐ 咳が増えた ☐ 37.5度以上の発熱		

相談業務 件数は年々増加

「がんとの共生」ハローワーク出張所も



政府が今年3月に閣議決定した第4期がん対策推進基本計画では、「がんとの共生」を柱の一つに掲げ、相談支援や情報提供の重要性を指摘しています。本院のがん相談支援センターでも、患者、家族をはじめ地域の方からの相談を受け付けています。対面、電話どちらでも対応し、匿名での利用も可能です。相談件数は2017年度に1,000件、2019年度は1,100件を超えています。

相談内容は最先端の治療法から副作用、高額医療費までさまざま。「どれだけ仕事を休まないといけないのか」「子どもや親へはどう伝えればいいのか」などなかなか相談しにくいものも。インターネットの普及で真偽の怪しい情報や個人のブログなどへも簡単に接することができるため、不安に思うケースも増えています。担当の



看護師は「状況も事情も違う中で、個人の方の特殊な事情に振り回されるのではなく、正しい情報を入手してほしい」とし、国立がん研究センターが運営するがん情報サービスなどを紹介、まずは主治医に相談することを勧めています。今年6月から相談者へのアンケートを実施、「聞いてもらってよかった」「相談して安心した」など満足度は高くなっていました。

病気療養中の方へのハローワーク出張相談(事前予約制)も月に1回実施しています。療養中でも体の状態をみながら仕事ができるように転職や新規就労の相談に乗っています。また正しい情報を提供する「患者サロン」、患者同士が語り合う「おしゃべり会」も定期的に行っています。今年3月には初めてのAYA世代の方たちを対象にしたおしゃべり会も実施、好評だったため10月にも2回目を予定しています。

がん診療連携拠点病院 研修や市民講演会も

広島県内ではがん診療連携拠点病院として13施設が指定され、がんの治療だけでなく、地域のがん医療従事者への研修や、がん患者の方に対する情報提供や相談支援なども行っています。また広島2次医療圏の5施設(広島赤十字・原爆病院、広島市立広島市民病院、広島市立北部医療センター安佐市民病院、県立広島病院、広島大学病院)が共催で毎年、市民講演会を開いています。今年も10月1日午後1時～午後3時半、「高齢者のがん治療を考える」をテーマに、広島県医師会館(広島市東区)で開催します。特別講演として高齢者のがん薬物療法ガイドライン作成部会の委員長を務めた安藤雄一教授(名古屋大学)が「高齢者のがん薬物療法」と題して話します。食事の工夫、リハビリテーション、相談支援センターなどについて各病院の担当者らが講演、事前の質問に答えるパネルディスカッションも。スタート前の時間には先着順に「がん相談コーナー」も設け、各病院の相談員が対応します。参加無料で要申し込み、定員300人です。

第14回 がん診療連携拠点病院共催 市民講演会

がん相談コーナー
12:00~13:00

納知得！ 安心して

高齢者のがん治療を考える

2023年10月1日(日)
13:00~15:30 (受付12:00~)

広島県医師会館ホール
広島市東区二重の里 3-2-3
(広島駅北口徒歩10分)

プログラム

開会挨拶 広島大学病院 医師 岡本 渉 氏

特別講演 高齢者のがん薬物療法 名古屋大学 化学療法部 教授 安藤雄一 氏

一般講演 「高齢がん患者のフレイル予防～治療を続けるために～」
治療のタイミングに合わせた食事の工夫 広島赤十字・原爆病院 本坂文子 氏
がんリハビリテーション 県立広島病院 千崎大輔 氏
治療と暮らしを支えるがん相談支援センター 広島市立広島市民病院 高木成美 氏

事前の質問に答えるパネルディスカッション
閉会挨拶 広島大学病院 名誉教授 杉山一彦 氏

参加無料
要申し込み
300名限定

申込締切
9月15日(金)
事前質問受付締切は
同日12時

お申込み方法は
裏面を
ご覧ください！

Webで見逃し配信
視聴者登録も可能！
10月23日(月)~10月28日(日)
詳細はQRコードを
ご覧ください。

協賛
県立広島病院 広島赤十字・原爆病院 広島市立広島市民病院 広島市立北部医療センター安佐市民病院 広島大学病院

患者の選択肢を広げ適切な治療へ環境づくり



岡本 渉 センター長の話

がんの治療では、手術、薬剤、放射線を組み合わせた治療になることも多く、院内の連携が欠かせません。また、ロボット手術といった新たな医療技術や新薬が次々と登場する中で、標準的～先端的治疗まで、適切かつ安全に実施していける体制が重要であると考えています。さらに、大学病院は新たな治療の開発を進めていくことも重要な責務の一つですので、臨床試験や治験といった研究的な治療も患者さんに安心して受けていただける環境づくりが必要であると考えています。

がん治療の進歩で治療の選択肢が増え、あらゆるメディアからの情報も増えていることで、かえって患者さんや御家族の悩みや不安につながっていることもあると思います。また、治療の進歩や社会環境の変化で、治療中～治療後の生活の過ごし方も昔とは変わってきていると思います。がん相談支援や市民公開講座などを通じて、患者さんや御家族が不安なく生活を過ごしていただけるような支援体制を整えて参りたいと思います。

より良いがん治療を受けて頂けるよう、当センターに求められる役割をしっかりと果たして参りたいと思いますので、お気軽に御相談下さい。

ニュースアップ

眼底カメラ開発でクラウドファンディング目標達成

広島大学大学院医系科学研究科(視覚病態学)、広島大学病院眼科では2～4月、「広島大学クラウドファンディング」により新しい眼底カメラの開発とAIを活用した遠隔眼底診療の仕組みづくりへ向けたプロジェクトを企画、149人の方々から366万8千円のご寄付をいただきました。

日本における失明原因の上位を占める緑内障や糖尿病網膜症といった眼底疾患は、自分で見えにくいなど感じたときには手遅れの状態となっていることが多く、自覚症状のない早期に眼底検査を行い診断・治療を開始する必要があります。そのため、気軽に簡単に検査と診断を受けられる方法と仕組みが求められています。今回開発するのは、スマートフォン接続型の眼底カメラで撮影した画像を、インターネット経由でAIや専門の眼科医が遠隔診断することで、より多くの患者さんに眼科医療を届け、緑内障や糖尿病網膜症の早期治療につなげていく仕組みです。この取り組みは、できる限り安価にして、より多くの方に活用していただけることを目標にしています。いただいたご寄付により、スマートフォン接続型カメラとそれを用いて撮影した画像を、AIとも連携させた遠隔眼底読影の開発に取り組みたいと考えています。

木内良明教授は「大変多くの皆様からのご寄付や応援のお言葉に気が引き締まる思いです。『眼底疾患を早期発見することで失明を防ぎ、皆が明るい未来に暮らす世界』を実現することが最大のお返事だと思っています。ここからが新たなスタートです。チーム一丸となり、少しでも早く皆様にスマホ接続型の眼底カメラとAIを活用した遠隔診療体制をお届けできるように開発を進めていきます。また、皆様のご支援が後押しとなり、AMED(国立研究開発法人日本医療研究開発機構)の事業からも採択を頂くことができました。より一層気を引き締めて開発を加速させたいと思っています」と感謝しています。



むし歯菌チェックなど「親子のお口の健康教室」

歯と口の健康週間(6月4日～10日)にちなんで広島大学病院小児歯科が6月2日、「第41回親子のお口の健康教室」を、病院診療棟3階の小児歯科待合スペースで開きました。新型コロナウイルス感染症の拡大での開催延期を経て4年ぶりのイベントとなり、小児科や小児歯科、矯正歯科等の受診待ちの患者さんらを中心に参加いただきました。

まず野村良太教授のあいさつの後、むし歯予防や食生活に関するアニメーション動画を上映しました。むし歯リスクテストとして、少量の唾液を取り、15分ほどでむし歯菌の量をチェックできるテストをして、「菌が多いとリスクが高まります」などと解説。併せて年齢に応じた歯ブラシの選択方法を紹介しました。また清涼飲料水に含まれる砂糖の量を実際のペットボトルに入れて展示、訪れた人は「思った以上に入っているんですね」など驚いていました。



看護師 プラス

看護師の業務が拡大しています。「専門看護師」「認定看護師」は高度化・専門化が進む医療現場でレベルの高い看護を実践できる看護師に認められた資格です。いずれも日本看護協会が認定しています。

専門看護師は、看護師として5年以上の実践経験を持ち、看護系大学院で修士課程を修了して必要な単位を取得したのちに、専門看護師認定審査に合格することで取得できる資格で、13分野。認定看護師は、看護師として5年以上の実践経験を持ち、日本看護協会が定める600時間以上の認定看護師教育を修め、認定看護師認定審査に合格することで取得できる資格で、21分野です。それぞれの資格を持った看護師がどんな活動をしているのか、紹介していきます。



[専門看護師]
小児看護
笹木 忍

01 どんな仕事？

こどもとその家族への対応を中心とした仕事です。現在は小児科に勤務しながら、他の診療科からの相談などにも応じています。必要があれば一緒に介入することもあります。家族だけでは対応が難しく訪問看護が求められるケースでは、その調整にもあたっています。看護の質を上げるには、みんなのスキルアップが必要になります。子ども自身の話を聞くとときでも意図をもって会話することで、その後のこどもへの看護に生かせることも出てきます。「こどもとその家族に対して、考えて関わっていくことが次につながる」と意識して伝えています。



02 きっかけは？

もともと、子ども病院で小児看護に携わっていましたが、一時期現場を離れて教育機関にいました。再び現場に戻ろうと考えたときに、スキルを身につける必要を感じて専門看護師の道に進みました。

03 将来へ向けて

県内の小児看護の質の向上へ、症例検討など「小児看護に関する専門研修」を実施、底上げを図っています。また地域のこどもたちに、命の大切さを知ってもらう「命の授業」のような機会を持てないだろうか、と考えています。病気を持つ子に限らず、多くのこどもたちが健やかに成長することには貢献できればと思います。



[認定看護師]
摂食・嚥下障害看護
平山 順子

01 どんな仕事？

院内にあるNST(栄養サポートチーム)や摂食嚥下支援チーム(2021年6月発足)の一員として、入院中の患者さんを対象に「栄養」や「食べること」をサポートします。医師、歯科医師、言語聴覚士、薬剤師、管理栄養士、歯科衛生士らとともに週1回、患者さんの食事場面をチェックします。姿勢や食事の内容などを見て、誤嚥リスクを防ぐ方法や栄養面でのよりよい食事、退院へ向けたリハビリなどを多職種で話し合い、調整していきます。情報を共有して患者さんに最善の方法を見つけています。



02 きっかけは？

口腔外科の看護師として勤務していた時、実際に食べることが難しい患者さんから日記や手紙をもらって食べることの大切さを感じていました。摂食嚥下障害を専門とする先生のもとへ長期研修に行く機会を得たことでさらに関心が高まり、摂食・嚥下障害看護認定看護師の一期生として資格を取得しました。

03 将来へ向けて

現在は過去のデータからリスク判定を進めています。チームが介入するのはやはり高齢者で、在院日数も長くなっているケースが多いようです。既往歴に脳卒中や頭頸部癌、神経筋疾患がある患者さん、気管挿管歴がある患者さんも目立ちます。誤嚥性肺炎を防ぐため、リスク要因を抽出して早い段階からアプローチできるような活動を進めています。



診療科最前線

「腎臓内科」

(診療科長:正木崇生教授)



▶ 診療科の特徴

腎臓内科は、軽度の尿検査異常から、腎炎、ネフローゼ症候群、糖尿病性腎症、そして、腎硬化症、急性腎障害、慢性腎臓病(CKD)、膠原病に伴う腎障害などに対する治療をはじめ、腎臓が完全に機能不全に陥れば血液透析や腹膜透析などの腎代替療法を担当する診療科です。一般的に、腎機能低下などで他科から院内紹介を多く受けることも腎臓内科の特徴です。また、CKD治療における降圧目標達成率が全国と比較して高いことも当科の特徴です。

▶ 患者さんの動向

外来では、毎月平均450人の外来患者さんの診察を行っており、うち45人強が初診の方です。初診の患者さんは蛋白尿や腎機能障害を指摘された患者さんの紹介が大半を占め、その他、透析合併症の方や、県内の総合病院で診断や治療に難渋する患者さんの紹介を受け入れています。

▶ 得意分野

診療ガイドラインに基づき、大学病院として専門医による専門性を活かした診療を行なっています。

慢性糸球体腎炎診療:年間100件以上の腎生検を行っており、全国的にもトップクラスです。電子顕微鏡による診断も行なっているため、診断や治療の難しい症例に対しても適切に対応しています。

透析診療:年間2,735件の血液透析療法(HD,HDF)、315件の血液浄化療法(PE,DFPPなど)を行なっています。腹膜透

析患者は10人です。一般の病院やクリニックと比較して全身状態の悪い透析患者さんが多く、より時間をかけた丁寧な診療が必要になっています。また、透析患者が合併症のため他科入院となった場合に、透析療法を受け持つと同時に一般内科的診療や薬剤容量調節のコンサルトも受け付けています。

▶ かかりつけ医との連携

当院で専門的な治療を行なったあとは、可能な限り紹介元での診療に戻っていただけるように連携をとっています。学校健診やかかりつけ医による蛋白尿やCKDの早期発見は、末期腎不全の減少につながり最終的には患者さんの生命予後の改善につながります。

▶ 新しい動き

我が国にCKD患者は約1,330万人存在し、20歳以上の8人に1人はCKDと考えられます。CKDは末期腎不全のリスクであり、同時に心臓病や脳血管障害のリスクになることが知られています。CKDを完治させる薬は未だありませんが、進行を遅らせることは可能であり、血圧や血糖値を低下させる薬物などが使用されます。そのような状況のなかで、腎臓内科では無血清培地で培養した脂肪由来の間葉系幹細胞を、腎硬化症、糖尿病性腎臓病、IgA腎症によるCKDの患者さんに投与する臨床試験を実施中であり、CKD治療法の開発に挑んでいます。



催しのご案内

(2023年6月~10月)

世界肝炎デー企画 市民公開講座

第1部「最新の肝炎ウイルス治療について -C型肝炎-」

講師:医療法人たかまさ会 山崎病院 今村 道雄 院長

第2部「最新のB型肝炎治療」

講師:消化器内科准教授 柘植 雅貴

公開日:7月24日(月)~9月30日(土)

自宅で学べる肝臓病教室

「知って欲しい 肝硬変のお話」

公開日:6月12日(月)~通年公開

講師:消化器内科診療講師 大野 敦司



開催方法:肝疾患相談室ホームページからの視聴(講演動画配信)

HP URL: <http://shounai.hiroshima-u.ac.jp/counseling/>

(「広大 肝臓病教室」で検索)

申込:不要

問い合わせ:肝疾患相談室 ☎082-257-1541(10:00~12:00 13:00~16:00)

がん治療を支える患者サロン

甲状腺がんの話題と頭頸部がん治療の最前線

8月17日(木) 14:00~15:00

会場:臨床管理棟3階 3F4会議室/zoom

講師:耳鼻咽喉科・頭頸部外科医師 上田 勉

患者おしゃべり会

9月26日(火) 13:30~14:30

場所:診療棟2階 情報プラザ

AYA世代おしゃべり会

10月3日(火) 17:30~18:30

場所:診療棟2階 情報プラザ

対象:AYA世代(15歳~39歳)がん患者さん

AYA世代にがんと診断されたがんサバイバーの方

問い合わせ:がん相談支援センター ☎082-257-1525